

日本バウハウス協会
講演 (オンライン)
日本バウハウス協会会員は講演現地参加も可
2025年3月19日(水)
18:30-20:00

小林 宏道

バウハウスへの道程としての ドイツ工作連盟の成立と展開



1919年バウハウス創設以前のドイツにおけるデザインや美術・工芸に関する重要な社会活動であった「ドイツ工作連盟」(1907-1933)は、一部の工芸家、建築家、芸術家などの専門家、同好主義者集団の枠を超え、広く産業界、政財界、教育界などを巻き込む、ある種の国策集団として成立した。それは他の欧米諸国でも同類の組織・活動を誘発するが、第一次大戦後に工作連盟の活動は縮小、変質していく。その本来の理念はル・コルビジエらの近代建築国際会議(CIAM)などへも継承されるが、一方で1914年まで工作連盟で活躍したグロピウスとヴェルデの関与により工作連盟のエッセンスを凝縮して誕生する総合芸術学校バウハウスは、実験的で先鋭的なデザイン、芸術の発信や啓蒙の拠点を目指し、多様な才能と人材が集結、育成されていく。工作連盟～バウハウスへの系譜を俯瞰することでバウハウスを単なる近代デザインの時代のあだ花や特異点に留まらせず、広く時代や社会における存在意義を理解するヒントになるでしょう。

講師 小林 宏道 (こばやし ひろみち)

元多摩美術大学美術館学芸員、1965年東京生まれ。多摩美術大学美術学部芸術学科卒。

1988-1992 多摩市立複合文化施設パルテノン多摩学芸員。1994-2019 多摩美術大学美術館学芸員。

2019-2022 多摩美術大学アートアーカイヴセンター、専門は近代ドイツ建築・デザイン・工芸史。その他に近現代美術の動向、メディア論、各種サブカルチャーの取材、研究、執筆も行う。

主催 日本バウハウス協会 (お問い合わせ)
<http://nipponbauhaus.jp>
講演は無料 (Zoom)

講演申し込みは2次元コードまたは下記URL

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_KI5XohzpS7-pEHKDbOzvWw

